

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470104060		
法人名	社会福祉法人 温寿会		
事業所名	グループホーム庄の原苑		
所在地	大分市大字荏隈字庄の原1797番地		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成26年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・私たちグループホーム庄の原苑は、緑多き自然が残り、しかも大分市街地に隣接するという絶好のロケーションを持ち、市街地に近いと言う事で、ご家族の皆様がいつでも気軽に来て頂ける施設を目指している。 ・法人運営のクリニックと連携しながら、健康管理を充実させている。 ・本人の思い、希望を叶える為の、個別支援に取り組んでいる。 ・25年8月より認知症対応型共同生活介護の短期利用を開始している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・様々な形で外出の機会を作っている。季節を感じ、人と触れ合い、気分転換や思い出作りに繋がる積極的な外出支援が行われている。 ・工夫された事業所独自の日々の経過記録や健康状況の記録が、個別介護計画や情報の共有、連携に活かされている。 ・運営推進会議には、事業所での取り組みやアクシデントについて詳細に記載され、充実した内容の資料が準備され、話し合いが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、毎日出勤時に玄関に提示している理念を唱え、気持ちを切り替え、理念に添った介護に取り組むようにしている。	母体法人の理念とは別に、事業所独自の理念が作成されており、日常の利用者支援の中で、常に職員間で意識づけされ、実践できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、苑の行事への地域の方の参加で交流を図っている。日々の散歩を通して、不審者パトロールをしつつ、地域の方となじめる環境づくりをしている。	地域の3世代交流会、運動会に参加している。また、日常的に家族を含め多くの来所者があり、積極的に事業所行事の提案や協力が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の研修会で事例発表をしたり、認知症の症状に応じた対応の仕方の勉強会を行っている。また、人材育成のために中高生の職場体験や実習の受け入れを行い、認知症の理解を体感できる場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の日々の生活の様子が変わるように、2か月に一度広報誌を発行し、苑での取り組みを報告している。会議での意見や要望は、全体会議で検討し、改善している。	自治会長、民生委員、市職員、3人の家族会代表の委員と、自発的に複数の利用者が参加し、事業所の共有空間で話し合われている。事業所の取り組みを詳しく記載した資料が準備され、議事録も詳細に記録されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要ごとに市に出向き相談をし、アドバイスいただいている。	地域の要介護者の家族支援に積極的に取り組んでおり、その都度、市の担当部署に出向き、課題や疑問について話し合いを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議の中で、職員の言葉かけ、行動が身体拘束になっていないか振り返りを行っている。また、見守り重視で、職員間の声掛けを徹底し、玄関、テラスは施錠をしていない。	何が拘束かという意識づけを持ち、職員間の情報の共有と協力で、見守り重視での利用者支援に努めている。排便のない利用者、夜間不眠傾向となる可能性を申し送り、適切な見守りやケアに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で研修会を行っている。毎月の会議の中で、虐待につながる様な言葉かけ、行動はないか振り返っている。職員間でお互い注意をしている。		

事業者名:グループホーム庄の原苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑外研修に参加した職員が、伝達研修を行い全員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書を用いて、家族に十分な説明を行い、納得して頂き契約をしている。内容の変更や、新たな契約が必要になった時は、その都度説明しなっとくを頂いたうえで、契約の締結をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会の時に、皆さんからの意見や要望を出して頂いたり、2ヵ月に一回行事等を記載した広報誌をご家族に送付し、現状報告に努めている。また面会時に、ご家族に現状報告を行い意見を求め、会議で検討し反映している。	日常的に家族の面会が多い。家族会では、家族のみで話し合う時間が取られており、意見や要望の発言も多く、事業所運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や日々の業務の中で職員からの意見を聞き全員で検討し、業務に反映している。必要に応じて、所長と面談をしている。	各ユニットでの会議、全体会議が開かれている。個々の職員は、事業所内での役割を持ち、各種委員として積極的に運営に係っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	中堅職員を中心に、営業推進委員会、処遇改善委員会を発足させ、自分たちで意識を持って、ケアの質の向上、職場環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に内外の研修内容を通達し、各自の希望に沿えるように研修参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内外の同業者と連携し、研修会、交流会等に参加して、より良い支援をするための取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わる時間をたくさん持ち、ひと言ひと言に耳を傾け、職員間で情報交換を行い、何を訴えているのかを常に考え、気軽に話が出る環境作り心にかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯について、ゆっくりとお話を聞き、状況を把握しながら、苑として出来る事をお話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人やご家族が今どういう状況で困っているのか、不安に思っているのか確認し、その方にあった支援をしている。又、緊急時は、同事業所内で対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、お互いに協働しながら感謝の気持ちをあらわしたり、コミュニケーションを図る事で、和やかな生活が送れるように支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りの中で、体調、様子などを報告し、面会時やカンファレンスの時に、ご家族や本人の意向を聞きだしたり、本人の暮らしの様子を伝える事で、お互いに協力し合っている。外出行事にも参加頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや散歩で生まれ育った所、以前住んでいた懐かしい場所に行っている。また、併施設と協力し、馴染みの場所や人と関わりが途切れないようにしている。ご家族にも協力して頂いている。	同一法人のデイサービス利用や有料老人ホームからの住み替えの利用者が多く、ホームの行事計画に各事業所の行事やイベントを組み込んで人との係わりを大切にしている。馴染みの場や関係の継続に家族協力も得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格、趣味生活習慣を職員が共有し、日々変わる利用者同士の関係については、すべての職員が共有できるようにしている。行事やレクリエーション等をとおして、利用者同士が関わり会えるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に移られる施設の方に情報提供を行うと共に、退所後も面会に行ったり、ご家族に連絡を取り様子などを伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のひと言の記録の中から、本人の思いや気持ちをくみ取り、プランに反映させ、本人本位の支援に努めている。	認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式を基に、職員間で話し合い、共通ツールのバージョンアップに取り組んでいる。また、日々の記録の中に、利用者の思いの詰まった「ひと言発言」が記され、思いや意向の把握が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時(入所後も必要に応じ、にセンター方式に沿って聞き取りを行っている。認知症でわからない部分があるので、ご家族からの情報がほとんどである。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子の申し送りや、ユニット会議(個別支援)で、一人ひとりの様子や変化、できる事、できなくなってきた事等、今後の支援について、細やかに話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で課題を挙げ、検討策を皆で考え実行し、振り返りを行い、次につなげている。又3か月に本人、ご家族を含めてカンファレンスを行い、プランの見直しを行っている。支援経過、モニタリングを行い、プラン見直しを行っている。	思いや意向を基に、ケアカンファレンスを開き、利用者、家族の意見を聞き、介護計画に反映している。介護計画は、具体的支援で表現され、実践に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を用いて、日々の様子や気づきを時間ごとに記録し、生活の様子がわかるようにしている。また、支援経過も毎日チェックし、情報の共有とプランの見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外にも、本人の出来そうなことや望んでいることを、ひと言の記録の中からと、コミュニケーションの中から聞き取り、プランに反映して、個別支援として実施している。		

事業者名:グループホーム庄の原苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との繋がりを持つ為、地域への行事参加、苑の行事参加の呼びかけ等行っている。リサイクル資源の学校への寄付や、パトロールを兼ねた下校時の散歩を行なうことにより、地域の一員としての実感を感じて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人内の庄の原クリニックの医師と医療連携を結び、24時間365日連携を図れる体制を構築している。入所時は、本人、ご家族の希望で、同クリニックが主治医になれる体制を構築している。	同一法人内のクリニックの医師が掛かりつけ医となっている。利用者の健康状態が事業所独自の様式で詳細に記録されており、受診時の正確な情報提供や情報の共有に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録表を作成して、個々の食事や水分量、バイタル、2週間分の様子を記入して、往診時に医師、看護師に伝えている。又、必要に応じ、看護師に指示を仰いでもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、安心して治療が受けられるように、ご家族とともに介護支援専門員が、医師、看護師とのカンファレンスに参加している。また、治療終了後に早期に退院できるように、連絡、調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期についての話し合いを行い、施設ちして出来る事、できない事を伝えている。日々状態も変化するので、3か月ごとのカンファレンス時に希望を聞いて、状態が悪化すれば、同法人内特養へ移行できるように体制を整えている。	訪問看護やターミナルケア専門医との連携により、末期がんの利用者の看取り経験がある。利用者の身体面、病状等、状況に合わせて、スタッフや事業者との連携が取られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、事故発生時は、マニュアルに沿った対応が実践出来ている。定期的にマニュアルに沿った訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に一回防災訓練を職員に意識づけをしていると共に、利用者も参加した避難誘導訓練も行っている。	定期的にグループホームでの避難誘導訓練が行われ、職員は、同一敷地内の軽費老人ホーム(ケアハウス)や特別養護老人施設の訓練にも参加している。近隣住民や家族を含めた緊急連絡網が作成中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の支援は、必ず本人に確認、自己決定しやすい様な言葉掛けをしている。また、排泄時、訪室時は、自尊心に配慮した言葉掛けや、対応をとるように、常に心がけている。	利用者一人ひとりの状況に合わせた言葉使いや対応に配慮している。難聴の利用者には、誇りを損なわないようジェスチャーやボディータッチで安心感を与え、コミュニケーションを取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛けを行っている。意思疎通の難しい方は、ボディータッチを行い意思疎通を図っている。外出行事や嗜好品についてはいくつか提示し選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で、いろいろな事に参加できるように声掛けはしているが、無理維持せず体調、思いを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思を尊重しご自身で選んで頂けるような支援を行っている。ご自分で出来ない方は職員と一緒に選ぶお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食後、その方にあつた役割を持って頂き、みんなで準備し、職員も一緒に同じテーブルで食事をしている。自分で作る事の楽しみを感じて頂けるように、おやつ作りや料理教室も行なっている。	食事は、3食とも法人の厨房で作られている。毎週日曜日は、利用者と共に饅頭やおはぎなど、手作りのおやつ作りを行っている。定期的に外食に出掛け、寿司やカフェ、バイキングなどを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎食チェックし、減少が見られるときはドクターに相談したり、本人の好むものをご家族と相談し提供している。また、食事形態は、利用者の体調や好みに合わせ、栄養士と相談しながら、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が一人ひとりの口腔ケアを、見守り又は介助で行っている。口腔内に異常があるときは、協力医院のドクターに診て頂き、維持を仰いでいる。		

事業者名: グループホーム庄の原苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄記録から、一人ひとりのパターンを把握し、トイレで排泄できるよう声かけ、誘導を行っている。また、尿意のない方は、時間を決めて誘導することにより、トイレで排泄できるようにしている。	利用開始から、身体状況や排泄パターンを検討し、排泄の改善に繋がった事例がある。合図を決めて、漫然と床上での排泄にならないよう工夫するなどの取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日身体を動かすよう、体操、レクへの参加、苑内、苑外の散歩を行なっている。一日の水分量や排便の有無をチェックし、予防に心がけている。また、個々にあわせて飲食物の工夫、玄米ご飯の提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の希望により入りたい日に入浴して頂いている。嫌がる方は、言葉かけ、時間の工夫、ご家族にも協力して頂いている。	週3回の入浴を基本としている。入浴嫌いの利用者に、家族や医師に声掛けの協力してもらい、入浴を勧めている。また、利用者のトイレ移動のタイミングに合わせてスムーズに入浴できるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やその時の状況、本人の希望により、居室のベッドで休んだり、テレビ視聴されたり、ソファにてゆっくりされている。夕食後は、就寝に向け穏やかに過ごせる様に、飲み物を提供したり、話をしたり、一緒に就寝の用意をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋の個々のファイルを作り、職員が把握できるようにしている。服薬時は、職員が一人ひとり行い、飲み込むまで確認をしている。用法、用量が変更になった時は、職員に申し送りや記録で周知し、体調変化時はドクターの指示を仰ぐ。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事を把握し、生活の中で出来る仕事をお願いし、感謝の気持ちを伝えている。また、個別で楽しめるように本人の希望で、散歩買い物、ドライブ、生け花等出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望にそって、散歩、買い物、ドライブなどに出かけたり、少人数のグループごとに、ご家族やボランティアの方に参加をして頂き、楽しんで頂けるように支援をしている。	食器の返却や自動販売機に缶コーヒーを買いに行くなど様々な機会を作り、職員と一緒に日常的に室外に出ることを日課としている。集団での外出は、法人所有の車両を利用し、県内の多くの観光地や車いすマラソンの応援などに出掛けている。	

事業者名:グループホーム庄の原苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はほとんどの方は個人で管理していないが、外食、買い物、移動販売等、職員と一緒にいき、自分で買い物をしたり、支払いが出来るように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をかけたいと希望されたときは、その都度職員が対応して、かけて頂いている。ご家族からの電話は、電話口まで誘導しゆっくり話せるように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を五感で感じられるように、壁に写真を貼ったり、絵や飾りなどをしたり、また、苑の周りを散歩したおりに咲いている花を摘み、ホールに飾り季節感を感じられるように支援をしている。ソファやテーブルなどの配置を考え、好きな場所で過ごせるようにしている。	共有空間のホールでは、常に職員が利用者に寄り添い、会話を交わし、穏やかに見守られている。壁には、日常生活や外出先での写真が貼られ、多くの訪問者が、外出支援の状況や日常の利用者の生活状況を知ることができ、利用者の回想法による効果にも繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、テレビ、新聞、本などがあり、ソファやテーブル席で、一人ひとりがゆっくり過ごしてもらえるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた家具や、馴染みの物を置いたり、写真を飾ったりして、自分の部屋だと分かるように、また、安心して居心地良く過ごせるような空間づくりをしている。	各居室には、利用者の職歴や趣味、生活歴を活かした備品などが置かれ、清潔に保たれた安心感のある居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内の移動、浴室、トイレは手摺を設置し、安心、安全に出来るだけ自分で出来るようにしている。		